

東教育財団だより

迎春

本年もよろしく
お願い申し上げます



発行所
公益財団法人
東教育財団
大阪市中央区南本町
2-2-11 堺筋本町
西尾ビル6階
電話 06 (6262) 7368
FAX 06 (6227) 8058
発行責任者 沼田 宏

令和二年度の

助成事業を

募集します

東教育財団では、中央区内の学校教育及び社会教育の育成、並びに、地域文化の振興に寄与するため、学校教育活動、社会教育・生涯学習活動、並びに、地域文化・まちづくり活動に助成をおこなっています。

令和二年度の助成事業の申請受付は、**二月十一日(水)から二月二十八日(金)まで**です。
※なお、申請の事前相談は随時受付しています。

助成対象事業

① 学校教育事業助成

中央区内の学校教育の充実・発展に寄与し、且つ、当該校園の独自性や特色を持つ事業

〈参考事例〉

- 地域の歴史、伝統、文化、産業等に関する調査・学習事業
- 右記の調査・学習によって作成した冊子等の発行事業
- 外国につながるのがある児童生徒への日本語等指導事業
- 姉妹校交流(多文化交流・共生)事業

- 伝統芸能(文楽、能等)鑑賞、学習、発表事業

- 校内緑化等自然環境整備事業

- クラブ活動に必要な用具・資材の購入・貸与事業

- クラブ活動の地域交流事業

(例:吹奏楽部が開催する地域コンサート)

- クラブ活動等における全国大会等への参加事業

- 学校周年記念事業(十周年等特別に実施する周年事業に限る。)



「学校教育事業助成説明会」風景

② 社会教育・生涯学習事業助成

中央区内の社会教育や生涯学習の充実・発展に寄与する事業



「社会教育・生涯学習事業助成説明会」風景

③ 地域文化・まちづくり事業助成

中央区内の地域文化や東地区五地域のまちづくりの振興に寄与する事業

助成対象団体

① 学校教育事業助成

中央区内に所在する公立の幼稚園、小学校及び中学校

② 社会教育・生涯学習事業助成

社会教育・生涯学習の活動を行う社会教育団体及び生涯学習団体

③ 地域文化・まちづくり事業助成 地域文化・まちづくり活動を行 う団体



「地域文化事業助成説明会」風景

助成限度額

令和二年度中に満期償還となる国債・地方債はないが、令和元年十一月満期償還となった地方債の償還後の運用を引き続き銀行に定期預金し、債券市場を見守ることとすれば、令和二年度の運用収益は、前年度比で三二六万円（＝二億円×一・五八％）の減となり、これまでの経緯からすると、令和二年度の助成事業は、対象事業・対象団体を従前と

同様とすれば、助成額を令和元年度助成額から三二六万円減じる必要がある。

しかし、現下の超低金利状況からの脱却が見通せない中、令和四年十二月・国債（額面三億円 利率一・四〇％）、令和七年六月・国債（額面十億円 利率一・九〇％）が満期償還となり、基本財産の運用収益の大幅減収が見込まれ、これまで通り運用収益の減に応じ助成額を減じることを持ければ、財団の目的・事業の達成が不十分となり、公益財団法人として存続することの意義を問われることとなる。

そこで、令和二年度以降の助成事業については、当該年度の運用収益額の如何に拘わらず、対象事業・対象団体・助成基準の何れも令和元年度と同様とする。

助成事業の紹介

令和元年度に助成した事業で、既に実施報告書を提出いただいたものを一部紹介します。

◆ 地域文化事業助成

「子供獅子教室」

いくたま子供獅子保存会が開設する「子供獅子教室」に地域の子供たちが自主的に参加して獅子舞を学び、生國魂神社の夏祭り（七月一・一・二日）の巡行にも参加して獅子舞を披露した。

このことにより、地域の文化財「獅子舞」の伝承・保存ができるとともに、世代・地域の文化交流が図られた。

（助成額 一二万円）



船場まつり「講演と講談の会」



（第一部「千両の富くじ」講談風景）

設立二五年目を迎えた淀屋研究会では、一〇月五日に船場まつりの一環として「講演と講談の会」を綿糸会館で開催した。

第一部の講談では「千両の富くじ」が語られ、第二部では、大阪歴博大澤研一副館長が「太閤さんの大坂城下町づくり」を講演され、大坂の町の基礎は秀吉の時代に築かれ、江戸時代初期には天下の台所と呼ばれるほどに発展したことが語られ、歴史ある大阪に住む誇りを感じさせられた。

（助成額一五万円）

「船場フォーラム二〇一九」



（提案コンペ応募作品展示風景）

船場倶楽部では、概ね十年先を想定した「船場二〇三〇ワクワクする船場」の「まちづくりアイデア提案コンペ」を実施し、九月二八日に綿業会館で、提案応募者による公開プレゼンテーションと入賞作品の表彰式、及び、「ワクワクする船場のこれから」と題した座談会を開催するとともに、併せて、先行チャレンジ企画「船場子ども写真コンクール」の表彰式を行った。

これにより、船場まちづくりの知見が得られ、フォーラム参加者の船場への興味・関心を高め、新

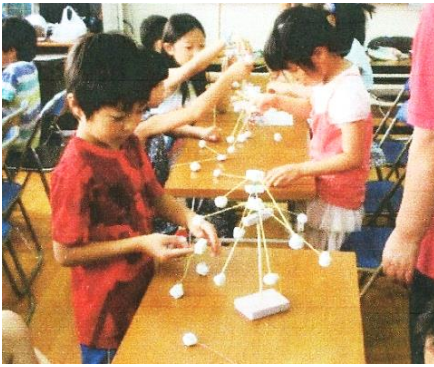
たな仲間や次世代の担い手の発掘につながった。

（助成額 一五万円）

「科学教室 やじろべえの仕組の勉強と工作り」

大阪市シルバーアドバイザー連絡協議会では、中大江小・南大江小・玉造小の低学年を対象に出前教室「子ども科学教室」を開催し、「やじろべえ」の基礎学習とバランス模型の製作体験を通じ、自由な発想、論理的思考力、美的感覚、創造力等を養った。

（助成額 八万円）



（子ども科学教室「やじろべえ」製作体験）

◆ 地域まちづくり事業助成

「中大江校下盆踊り大会」



八月六日・七日の両日、中大江公園で中大江校下盆踊り大会が開催され、中大江地区の住民を中心に中央区内や他地域から二日間で約二、五〇〇名以上の者が参加し、公園の中心に設けられた櫓で奏でられる音頭・民謡にのって、大勢の者が河内音頭や江州音頭を楽しんだ。

これにより、地域住民や在勤者との交流と和が図られ、また、世代間の交流も深まり、地域コミュニティが活性化された。

（助成額 一五万円）

「屋外ふれあい食事会」

南大江ネットワーク委員会では、五月一八日、南大江地域在住の七〇歳以上の高齢者を対象に、屋外（銅座公園）での食事会を開催した。

当日は雨天のため銅座幼稚園遊戯室での開催となったが、食事会を通じて高齢者同士の交流は勿論のこと、高齢者と地域住民との交流も深められた。また、アトラクションに取り組み、声を出すことで心身をリフレッシュし、楽しい時間を共有した。さらに、警察から地域の安心・安全についての話を聞く機会も持たれた。

（助成金 八万円）



（歌手の青木美香子さんと一緒に歌ってリフレッシュ）

大阪の食文化

— 淡口と濃口 —

醤油は、日本人の食卓に欠かせない調味料であり、関西では淡口（うすくち）が好まれ、関東では濃口（こいくち）が多く使われ、東西の味覚の差を表す代名詞になっている。

「うすくち」を広辞苑で引くと、「薄口」と表記され、「薄口醤油」は「色が薄い醤油。味・香りともにあつさりしているが、塩分は多く含む。関西で多く使用」と解説されている。

しかし、大阪人は「淡」にこだわらない。「薄めていない。色が淡くとも味はしつかりしている」と主張する。「浪速割烹喜川」店主上野修三氏は「きつちり味がつくのには、優しくまろやかに仕上がるから『淡口』と表現するんやと思います」と語る。

醤油の歴史は古く、奈良時代に使われた調味料に塩・酢・酒・醬（ひしお）があり、醬は食材を塩漬けにして発酵させたもので、魚醬・肉醬・草醬・穀醬などがあり、穀醬が味噌や醤油につながる。

醤油の最も古い産地は紀州の湯浅であるが、江戸時代の湯浅の醤油は濃口で、湯浅の旧家久保家の史料によると、湯浅で淡口がつくられたのは明治に入ってからである。

淡口醤油を開発したのは、播州の龍野であり、龍野の旧家圓尾家の古文書（元禄三（一六九〇）年）に「すみ醤油」という記述が残されていることから、淡口醤油の誕生は一七世紀後半だと考えられる。

江戸への醤油の入荷は、享保一（一七二六）年が十三万樽で、このうち大坂からの入荷量は十萬樽で、実に七七%が下り醤油である。その後、千葉の銚子や野田で醤油の醸造が盛んとなり、文政四（一八二二）年には江戸入荷量の九八%を関東産が占めるようになった（関東醤油の登場）。

現下の醤油の出荷量をみると、関西では濃口六〇%・淡口三二%であるが、関東では濃口八三%・淡口一四%となり（溜醤油や白醤油もあるので百%にならない）、関西の淡口・関東の濃口を裏付けている。

淡口醤油は、野菜や豆腐・湯葉などの素材の美しさを生かすのに適しており、京の懐石料理や精進料理を中心に関西で広く普及した。



なお、懐石は室町時代に寺院料理として登場し、安土桃山時代に千利休が茶の湯を完成させ、その流れを汲む懐石料理が誕生した。会席は江戸時代に発達した大名料理（本膳料理）と京料理や茶懐石

が合体してできたものである。

江戸では、江戸前（東京湾）で魚介が豊富に獲れたが、古くは魚介の生食は鱈（なます）といつて魚肉を細かく切って酢で和えて食した。醤油が登場してからは、魚肉をもう少し大きく切って濃口醤油をつけて食べるようになり、濃口がひろがった。

関西の淡口・関東の濃口は、このような歴史があるが、その傾向が今も続いていることは、先号に書いた「舌三代」の諺の正しいことを物語っている。

話は変わるが、東海地方では江戸期に濃口より濃い溜醤油や淡口より薄い白醤油が生まれており、名古屋の「きしめん」は今でも具によって溜醤油や白醤油を使い分ける店があるという。

（榎野 勝・記）

*このコラム欄への投稿を募ります。テーマは「おおさか」です。

一五〇〇字程度でお願いいたします。